

横浜市 風しん流行情報 7号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

《トピックス》

風しん患者の報告数が多い状態が続いています。

- ◇ 2018年第30週(7月23日～29日)から、全国で風しんの報告数が急増しています。
- ◇ 全国では感染者は96%が成人で、男性が女性の5倍多く、男性は30～40歳代、女性は20～30歳代が多く、予防接種歴なし、あるいは不明が93%を占めています。*1
- ◇ 市内でも、第34週(8月20日～26日)から11月7日までに103人の報告がありました。
- ◇ **妊婦、特に妊娠初期の女性**が風しんにかかると、眼や心臓、耳等に障害のある**「先天性風しん症候群」**の子どもが出生することがあります。
- ◇ **妊婦さんの周りにいる方(パートナー、子ども、その他の同居家族等)**は、風しんを発症しないよう予防が必要です。
- ◇ 市では、**「妊娠を希望している女性」、「妊娠を希望している女性のパートナー」、「妊婦のパートナー」**を対象に、「横浜市風しん対策事業」として風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。*2
- ◇ 風しんの主な症状は、**発熱や発疹、リンパ節の腫れ**などで、発疹の出る前後1週間は感染性があります。
- ◇ 風しんを疑う症状が現れたら、必ず事前に医療機関に電話連絡をして相談の上、医療機関の指示に従って受診しましょう。受診時は周囲への感染を防ぐため、マスクを着用し、公共交通機関の利用は避けましょう。

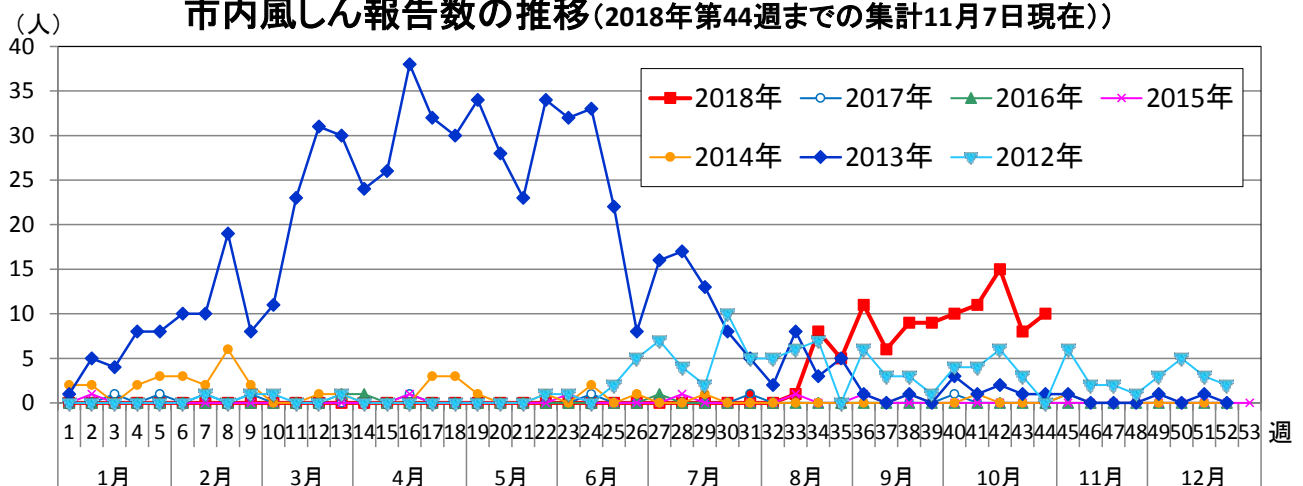
*1 [風疹流行に関する緊急情報\(2018年10月31日現在\)\(国立感染症研究所\)](#)

*2 [横浜市風しん対策事業\(横浜市保健所\)](#)

(参考) [風しんについて\(厚生労働省\)](#)

- 1 **市内流行状況**:2018年は7月まで市内での報告はありませんでしたが、第33週(8/13～19)に1人が診断され、現在までに報告数は累計103人となっています(11月7日現在)。1週間あたりの報告数の推移が、例年と比較して多い状況が続いており、今後の推移に十分な注意が必要です。

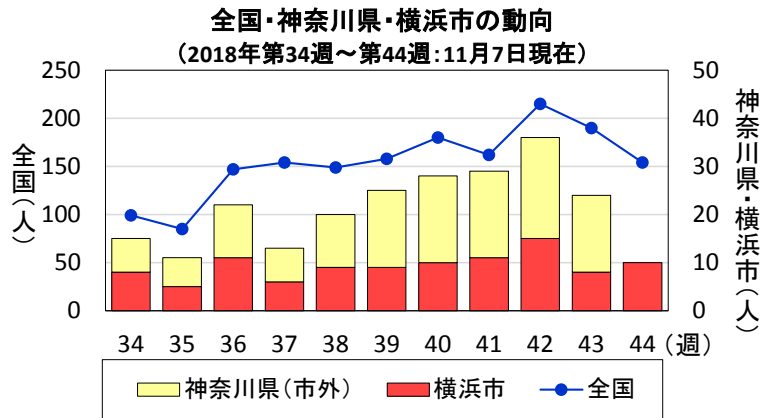
市内風しん報告数の推移(2018年第44週までの集計11月7日現在)



神奈川県内でも第31週(7月30日～8月5日)から報告が続いており、市内および県内での報告状況は、全国の報告状況と同様の推移となっています。

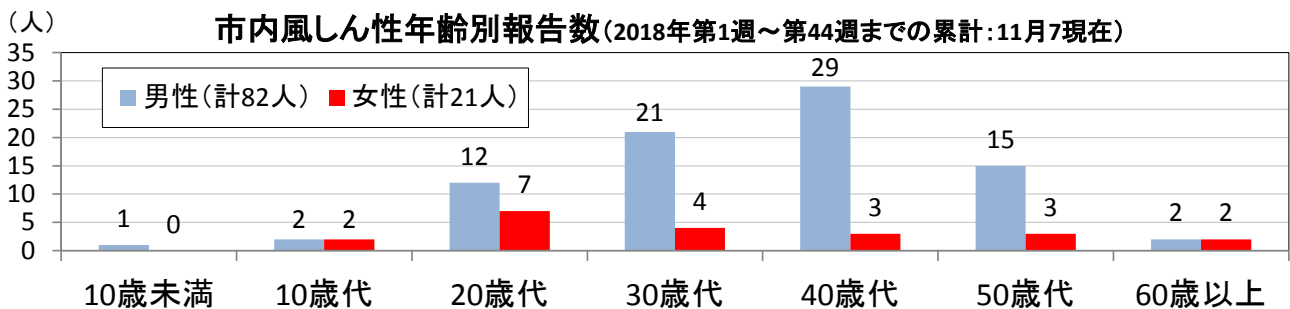
人口当たりの患者数は東京都が最も多く、千葉県、神奈川県、茨城県、埼玉県、愛知県、三重県と続いています。

※神奈川県(市外)の第44週の患者数は未確定のためグラフには掲載していません。

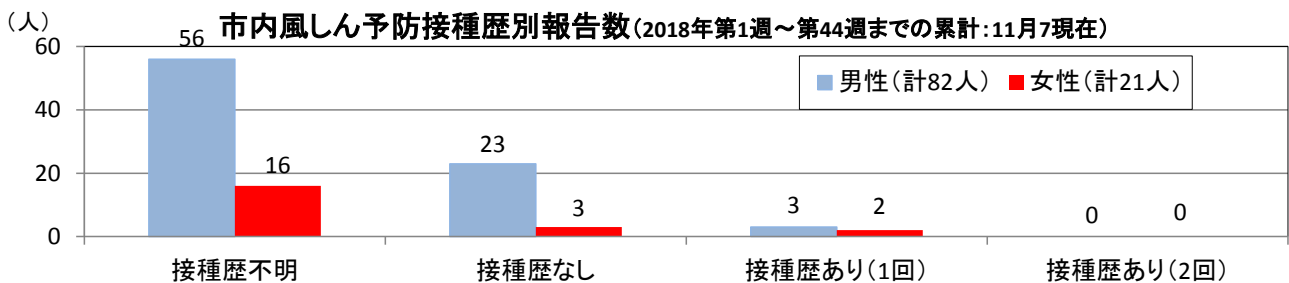


2 届出患者の性年齢別状況:

市内では、患者のうち男性が82人、女性が21人となっています。30～40歳代の男性の報告数が多くを占めています。



3 予防接種の接種状況: 予防接種歴が確認されたのは男性3人、女性2人のみで、他はすべて接種歴なしか、不明でした。風しんの予防には予防接種が有効です。大人の方は、自身の母子手帳などで予防接種歴を確認しましょう。



4 風しんの予防接種等について

○定期予防接種(風しんは、予防接種法による定期予防接種の対象疾病です。)*3

現在実施している定期予防接種では、「麻しん・風しん混合ワクチン」(MR ワクチン)を2回接種します。

【標準的な接種期間】

- ・1期:1歳以上2歳未満
- ・2期:5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

※3 [麻しん風しん予防接種について\(横浜市保健所\)](#)

○横浜市風しん対策事業(再掲)

横浜市では、19歳以上の横浜市民で、「妊娠を希望されている女性(注:妊娠中は接種できません)」、「妊娠を希望されている女性のパートナー」、「妊婦のパートナー」を対象に、「風しん予防接種」と「抗体検査」を実施しています。事業の詳細および協力医療機関はホームページ*4をご確認ください。

※4 [横浜市風しん対策事業\(横浜市保健所\)](#)